

保護猫と暮らそう

盛岡市中央通の不動産会社ダイナリアルティ（統橋志保社長）は保護猫の里親ボランティアとして猫と暮らす賃貸システム「シェアねこ賃貸」を始めた。同市の認定NPO法人もりねこ（工藤幸枝理事長）の保護猫を原則1年間預かる。もりねこによると県内初の取り組みで1部屋の入居者を募集中。「ペット可」物件が見つからず里親を断念していた人と、空き家が増えて困っている大家の双方にメリットがあり、何より猫たちの命を救う取り組みとして広げたい考えだ。

盛岡の不動産会社

入居募集中のシェアねこ賃貸は、同市材木町の5階建てマンション3階の2Kで賃料はひと月5万8千円。工藤理事長（35）の助言に基づき、猫と人が快適に過ごせる工夫が施してある。猫が遊べるキャットステップや脱走防止用の網戸も設置。収納の下を利用した猫トイレ専用の場所もある。壁はなめても安全な材料で塗られている。

賃貸システムを開始 里親結び空き家解消も

一緒に暮らす猫は、もりねこが保護する中から2匹まで選ぶ。去勢手術済みでトイレのしつけもされ、保護期間中はもりねこのアドバイスが受けられる。里親の期間は延長でき、そのまま引き取ることも可能だ。

もりねこは現在、運営する猫カフェや預かりボランティアの自宅などで約70匹の猫を保護。増えすぎて飼育できない「多頭飼育崩壊」に陥った家庭からの救出も相次ぎ、受け入れは満杯状態だ。工藤理事長は「切迫しており、一時的でも預かってもらうのは非常に助かる」と取り組みの意義を語る。

同社によると、同市では新型コロナウイルス感染症による転勤の減少や岩手医大付属病院の移転の影響で賃貸物件の空き家が増加しているという。同社は物件の付加価値を高める一手として、他の賃貸物件の大家にも勧める方針。統橋社長（40）は「人も猫も社会も幸せになれるような仕組みとして定着させたい」と広がりをお願いする。



キャットウォークやキャットステップが設置された「シェアねこ賃貸」の1室。盛岡市材木町